

## 脳卒中×触診—大腿四頭筋と片麻痺歩行の特徴について—

今回は大腿四頭筋の触診をしていきます。

### ●大腿四頭筋の詳細●

大腿四頭筋は大きく4つの筋に分かれます。



筋名	起始	停止	作用	神経
大腿直筋	下前腸骨棘 寛骨臼上縁の溝	膝蓋骨	股関節の屈曲 膝関節の伸展	大腿神経 (L2~4)
外側広筋	大腿骨外側 外側大腿筋間中隔	膝蓋骨	膝関節の伸展	大腿神経 (L3、L4)
内側広筋	大腿骨内側 内側大腿筋間中隔	膝蓋骨	膝関節の伸展	大腿神経 (L2、L3)
中間広筋	大腿骨前面 外側大腿筋間中隔	膝蓋骨	膝関節の伸展	大腿神経 (L2~L4)

大腿直筋は股関節の屈曲と膝関節の伸展に働き、外側広筋・内側広筋・中間広筋は純粋な膝関節の伸展に働きます。

### ●大腿四頭筋と片麻痺歩行の特徴について●

大腿四頭筋は膝関節の伸展に働くため、下肢に体重をかけた時に膝が折れないようにしている筋です。よく脳卒中の方で起こるのが麻痺側下肢に荷重をかけると膝が矢状面または前額面上で動揺が生じたり、膝が折れてしまうことです。このような方は大腿四頭筋の筋力低下や使用方法がよくわかっていないことが多くあります。大腿四頭筋が使えなくなると下の写真のように膝をロックして伸展位にし、骨盤を前傾することで**下肢後面の筋や靭帯の張力で支えるようになります。**

## 大腿四頭筋と片麻痺歩行の特徴



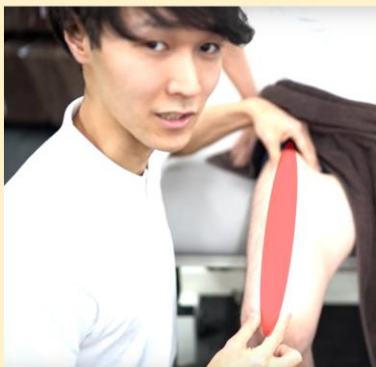
- 大腿四頭筋が働かず膝折れが生じる
- 足関節底屈位で骨や靭帯に依存する
- 過度な依存による痛みリスク
- 下肢の前方推進の低下に伴う体幹の過度な前傾
- 腰背部などへの過度な負荷

このような方は伸ばされながら活動する**遠心性収縮**が学習できていません。このような状態が続くと膝が弓なりに変形してしまい（反張膝）、痛みを生じることがあります。また反り腰のような状態となり**腰背部痛**が出現することもあります。その他にも抗重力伸展方向に伸びる機会が減少してしまうため、大腿四頭筋や下腿三頭筋が短縮してしまいます。以上のことから大腿四頭筋の状態を確認することはとても重要であることが分かります。

### ●大腿四頭筋の触診●

#### - 大腿直筋の触診 -

大腿直筋は上前腸骨棘の下の下前腸骨棘から始まっています。  
そして下前腸骨棘から膝蓋骨に一直線に停止しています。



股関節の内旋や外旋のアライメントによって  
位置がズレることがあるため注意が必要です。

### - 外側広筋の触診 -

外側広筋の下端は半腱様筋と半膜様筋の上になります。  
上端は大腿直筋の外側になります。  
外側広筋は大腿の前面から外側にいたり、下の写真のような大きさになります。



### - 内側広筋の触診 -

内側広筋の上縁は大腿直筋の内側になります。  
内側広筋の下縁は縫工筋の上方になります。  
遠位部ではこのような形になります。

